

手をつなごう

平成19年2月26日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 32

子どもの実態把握★その2

今回ご紹介するのはWISC - という検査です。

専用の検査器具が必要ですので、小中学校の現場で実際にしてみる機会はありませんが、ポピュラーな検査ですので、実態表等に検査結果が記載されているのを目にする機会が多いのではないのでしょうか？そのような時にどのような検査なのかを知っておくことは大切だと思います。



WISC-III 知能検査

特別支援教育研究2006NO.587
「心理検査とアセスメント」より

目的： 児童・知的発達の状態をプロフィールで示し、個人内差という観点から総合的に分析・診断する。

所要時間： 約70分（10の基本検査の実施に約60分、3つの補助検査に約10分）
検査を受ける子どもの態度や検査者の習熟度によっても検査の時間は長くなったり、短くなったりする。

適応年齢： 5歳0か月～16歳11か月

内容： 「知識」「類似」「算数」「単語」「理解」「数唱（補助検査）」という6つの言語性下位検査と「絵画完成」「符号」「絵画配列」「積木模様」「組合せ」「記号探し（補助検査）」「迷路（補助検査）」という7つの動作性下位検査の計13の下位検査からなる。



全般的な知能水準（全検査IQ）を示すことに加え、「言語性の知能指数」と「動作性の知能指数」が出る。更に、下位検査の評価点より4種類の群指数（言語処理、知覚統合、注意記憶、処理速度）を算出できる（群指数は認知的特徴を評価するのに有効である）。また、下位検査の評価点プロフィールの分析によって、強い能力や弱い能力を指摘でき、指導上有効な知見となる。子どもの知的発達の特徴をより多面的に把握できることから、LDや広汎性発達障害などの見立てや、治療的手がかりを得るために使われている。

保護者勉強会 サポートブックを作ろう！ 番外編

前回の勉強会で完成までには至らなかった方のために計画しました。当日急にご都合が悪くなった方もあり、参加者は少なかったのですが、その分じっくりと話をしながら作成ができ、中身の濃い勉強会となりました。

